

保育施設の防災を考える

岩手・大槌でサミット

東日本大震災の被災地で植樹活動などをしているNPO法人、子どもの森づくり推進ネットワーク（東京）は22日、岩手県大槌町で「保育防災サミット」を開いた。東京都や福井県から保育士ら約30人が参加し、災害時に保育施設に必要な備えや心構えを確認した。

震災時は岩手県釜石市釜石中の校長、2012年から釜石小校長を務めた渡辺真龍さん（70）が基調講演。津波から避難した同小児童について「子どもたちは専門強したことやつただけ」と言っていた。防災に関する知識や技能、マインドを身に付けることが防災文化につながると訴えた。

各施設の取り組みに関する事例発表もあった。岩手県山田町のとよまねこども園は保護者と一緒に避難ルートを歩いたり、引き渡しの訓練を行ったりしていることを紹介した。

サミットは大槌町が共催し、初めて開催された。子どもの森づくり推進ネットワークの塚原茂代表理事は「取り組みを共有できたのは大きな成果。今後も継続して開催したい」と話した。

テムは岩手大などが開発した「ビコントローラー」と、アステ阪市）が製造・販売する聴覚障受信機「アイ・ドライ・ドライ・ゴン4」を使えた仕組み。テレビを自動制御的に災害情報を伝える。一方で、ろうあ者の芳賀智美さん「慣れないホテルで不安がある」と語った。岩手大理工学系第一



保育施設の関係者によるパネルディスカッションも行われた

は、自身も乳がんを経た
「青森福祉バン

義な時間になつた」とうれしそうに語つた。

青森市の女性は「たゞ親友でも、本当の自分の気持ちを理解しきれない。同じ病気を経験したからこそ共感できる」と交流の意義を話した。

泥水すすり渴きしのぐ

子さん（88）

語り残す それぞれの戦争

沖縄本島南部の南風原村（現南風原町）で祖父母や両親ら7人で暮らしていた。国民学校では爆撃からの避難訓練や兵隊をたたえる歌の合唱があり、戦争の気配を感じていた。9歳だった1945年の4月ごろから毎日のように空襲が続き、防空壕で暮らすようになつた。妊娠していた母は妹を壕の中で産んだ。

父の指示で、親族ら約10人で着の身着のまま南に向かつた。曜日や時間の感覚もないまま、もうろくしながら移動した。食料調達は主に祖父と父が担つていたが、祖父はある日、食料を探しに出かけたまま戻つてこなかつた。

ていて、とてもとはできなかつ面に穴を掘つてぱですかつて泥と渴きをしに生き後間もなく、周囲の目にから「泣き声で殺しなさい」あつた。泣いてに胸をあてがうえている。

山は焼き打ちの手が見えた。焼け野原になつて真っ黒になつてウジが湧いてとにかく逃げた。山をいくつもふんどじで作つて、投降し捕虜ことだつた。

方言AIで健康づくり 山形・西川町 東京の企業とアプリ開発



方言を認識するアプリに話しかける伊藤さん（右）

山形県西川町と人丁知能（AI）開発のクリエイターズネクスト（東京）は、町民の方言を認識するAI搭載の健康増進アプリ「すつだい」を開発した。高齢者たちの健康寿命を延ばすため、町の全約1800世帯に配布しているタブレットで使用できるようにする。

アプリはAIに町民5人

文の音め、強い利用でき話ができる。発表であり、学習をすることで、A.I.が山形の方言を認識する。発表手が起業者からよおとA.I.画を勧め、アプリを楽しむとしてほ！」

岩手



支局 〒020-0015
市本町通2-3-2
5019-653-1441 F ax 624-5410
ル morioka@yomiuri.com
上支局 〒024-0061
市大通り2-11-23
上大通りビル3階
50197-65-1128 F ax 65-1072
石支局 〒026-0031
市鉢子町1-1
コスパビル2階A-1号
50193-31-3365 F ax 31-3367
与通信部 0193-62-1166
沿渡通信部 0192-27-2270
州通信部 0197-24-4359
ームページ www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

販売会（盛岡） 019-623-2215
リーダイヤル 0800-800-4381
岡南622-5224 盛岡 638-4477
みたけ緑が丘 641-1932
泉 82-4950 一関 33-2400
沢 47-6444 江刺 35-2850
沢 24-3333 平泉中央 33-2400
沢東 22-2655 北上 63-2024
23-2016 紫波 672-1722
52-4319 二戸 23-2366
53-2755 大船渡 27-2364
64-3943 釜石 23-8030
82-4599

【告】 販売岩手広告社 019-624-1650
【広告】 019-635-5866
【旅行】 東日本販売センター 050-3172-4343

5月25日（土曜日）

幼児の命守る防災学ぶ

大槌でサミット 職員の意識向上訴え

大槌町文化交流センター「おしゃつち」で22日、東日本大震災の教訓を踏まえ



釜石市の被災状況や児童の避難行動を説明する渡辺さん（22日、大槌町で）

くり推進ネットワーク（東京都）が、日本郵政グループの特別協賛を受けた「JP子ども森づくり運動」の一環として、初めて開催した。

基調講演を行った釜石市立釜石小学校長を務めた渡辺真龍さん（70）は震災当

た「保育防災サミット」が開かれ、県内外から集まった保育関係者ら約40人が幼児教育の現場で命を守る仕組みを考えた。

NPO法人子どもの森づ

時、同小の児童が速やかに高台に避難したことなどを説明し、「命を守るために普段の生活に防災の考え方を組み込むのが大切」と訴えた。

同NPOの防災リーダー

認定講座で講師を務める防災アドバイザーの鎌田修広さん（55）は、保育施設職員の防災意識を高める必要性を強調。山田町の「とよまねこども園」の上野瑞徳さん（41）は、おもちゃの収納棚を固定したり、給食室か

ら出火した場合の救助をシミュレーションする取り組みなどを紹介した。

同NPOの塚原茂理事（64）は、「施設同士の意見交換が防災力の向上につながる。引き続き東北で開催していただきたい」と話した。



風に揺れるネモファイラ